東ティモール民主共和国国民議会議長及び タイ王国上院議長の招待による両国公式訪問並びに 各国の政治経済事情等視察参議院議長一行報告書

> 寸 長 参議院議長 江 田 五月 参議院議員 輿 石 東 尾辻 秀久 同 白 浜 同 一良 高橋 同 行 国際部長 邦 夫 秘書主幹 清 水 賢 議長秘書 洋一 江 田 警護官 久 保 宏

- 、 始 め に 江 田 議 長 一 行 は 、 東 テ ィ モ ー ル 民 主 共 和 国 ア ラ ウ ジョ 国 民 議 会 議 長 及 び タ イ 王 国 プ ラ ソ ッ プ ス ッ ク 上 院 議 長 の 招 待 に よ り 両 国 を そ れ ぞ れ 公 式 訪 問 す る と と も に 、 イ ン ド を 訪 問 し た 。

ィモールは二〇〇二年に これらの 国々のう ち東テ 今世紀初の 独立国として独立したものの政治・経済・ 野でなお多くの課題を抱えている。議会制 社会 等 各 分 民主主義も正に確立途上にあるが、右の発展を促し、 て同国の民生の向上に資するべく、先方招待を受 て 公式訪問したものである。 タイ王国については、 け 年修好百二十周年を祝い両国関係発展の新たなス タ トを切ったところであり、 またタイ上院公選議員 挙 が 本 年 三 月 に 行 わ れ 新 た な 構 成 が 決 ま っ た こ と にかんがみ、両国議会関係ひいては両国関係の一層の 増進を目指して、 先方招待を受け入れ訪問したもので インドについては、近年新興経済国の一員とし 世界の注目を集めている現状を把握すべく訪問し 先 方 上 院 議 長 等 の 要 人 と の 意 見 交 換 を 行 っ た も の で ある。

二、 訪 問 日 程 議 長 一 行 は 、 六 月 二 十 五 日 に 日 本 を 出 発 し 、 七 月 四 日 に 帰 国 し た 。 そ の 日 程 は 以 下 の と お り で あ る 。

六月二十五日(水)東京発

六月二十六日 (木)

東 テ ィ モ ー ル ・ デ ィ リ 着 ダ ・ コ ス タ 外 務 大 臣 と の 懇 談

アラウジョ国民議会議長との会談

江田議長の国民議会での演説

東 テ ィ モ ー ル ・ 日 本 友 好 議 員 連 盟 と の 懇 談 ア ラ ウ ジ ョ 国 民 議 会 議 長 主 催 歓 迎 レ セ プ シ ョ

六月二十七日(金)

ホルタ大統領との会談グスマン首相との会談

```
ロバト法務大臣との会談
  グテーレス外務大臣代行(副首相)との会談
  邦人NGOとの懇談
  ボルジェス国民連帯党党首との会談
  ゴンサルベス公共機材管理院長との会談
  カレ国連事務総長特別代表との会談
  江田議長主催答礼レセプション
六月二十八日(土)
  ヴァスコンセロス・ポスト受容真実和解委員会
  (ポストCAVR)作業事務局所長との会談及
  び同施設の視察
  アルカティリ東ティモール独立革命戦線幹事
  長(元首相)との懇談
 ディリ発
 バンコク着
六月二十九日(日)
  アユタヤ視察
  王室サポート財団バンサイ工芸センター視察
   ッサナー上院第二副議長主催夕食会
  タ
六月三十日(月)
  ラーマ七世像への献花
  プラソップスック上院議長との会談
  ノパドン外務大臣との会談
  ソムチャイ副首相との会談
  プラソップスック上院議長主催歓迎昼食会
  プミポン国王陛下拝謁
七月一日(火)
  故ガラヤニ王女殿下への献花
  エメラルド寺院・王宮視察
  チャイ下院議長との会談
  江田議長主催答礼昼食会
 バンコク発
 デリー着
七月二日(水)
  国会議事堂等視察
  シン首相との会談
  アンサリ上院議長(副大統領)との会談及び同
  議長主催歓迎昼食会
  ネルー記念館視察
  日本ODA回顧展視察
  世界遺産レッドフォート、フマユーン廟視察
  在デリー日本商工会役員との懇談
七月三日(木)
  円借款案件のデリー地下鉄視察
  ガンジー記念館視察
  アシャ・クリニック(我が国草の根無償資金協
  力 で 供 与 の 医 療 機 器 ) 視 察
 デリー発
```

七月四日(金)

東京着 主 な会談及び視察等の概要 東テ ィモール民主共和国) ウジ ァ ラ ョ国民議会議長との会談等 ウジョ議長より、江田議長一行の来訪を歓迎す も に 、 こ れ を 機 に 両 国 の 議 員 交 流 が 始 ま り 今 後 るこ す とを期待する旨の発言があった。 また今回 一行来訪の機会に会談前日の六月二 十五日に東 ・日本友好議員連盟が同国議会で初めて テ ィモ ル 友 好 議 員 連 盟 と し て 発 足 し た 旨 の 紹 介 が あ っ た 。 さ ら に、同議長は、これまでの我が国からの様々な支援に 感謝するとともに今後ともよろしくお願いしたい旨 述べた。 これに対し、江田議長から招待に感謝するとともに 国民議会にて演説する機会を得て光栄であると述べ また江田議長は提案のあった議会間交流をこれか ら しっ か り 始 め て い き た い 、 参 議 院 に は 長 年 の 経 験 が で必要ならば提供したい、逆に我々は議会運営 あるの 熱を国民議会から学ぶ必要がある等発言した。 への情 両議長による共同記者会見を経て、全員が 民議会の議場に案内され、江田議長は、 議長席で、 別添のとおりおよそ十分間の日本語による演説を これに先立ち、議会を構成するすべての会派 行った。 の代表者が議場から、歓迎の言葉を述べた。 ・ 東 テ ィ モ ー ル ・ 日 本 友 好 議 員 連 盟 メ ン バ ー と の 懇 談 先 方 の参加者から次々に今後の交流に強い期待が 表 明 さ れ た ほ か 、 一 名 か ら 、 日 本 占 領 時 の 問 題 に つ き った。江田議長は、 発言があ そうした事実を知悉し て 心を痛めているが、政府間では、 年四月の 間の共同プレス・ステートメントのとおり、未来志 の 取 組 を 確 認 し て お り 、 こ れ に 沿 っ た 関 係 構 築 を 期 向 待する旨を述べた。 ホルタ大統領との会談 ホルタ大統領は、江田議長一行の来訪を歓迎する、 れまでの日本からの強い支援・連帯感に感謝する、 現在グスマン首相と今後日本に円借款の供与をお願 いし、インフラ整備を行うことを相談している等述べ まず本年二月の負傷以降、 江田議長からは、 大 統 領 の体調を気遣っ

ている旨述べるとともに、今後両国の 議 員 交 流 が 進 む こ と を 歓 迎 す る 、 議 会 に お い て は 大 い に議論を行い国民の同意を得ながら国 づく りに取り んでもらいたい、 今秋日本でアジア ・オセアニア地 国立図書館長会議が開催されることを紹介しつつ 化発展や国民意識向上のため国立図書館の設立を したい等述べた。 最後に、 ホルタ大統領に対して ・政治を有り難く感じると同時に政治参加 民が政府 性を国民に認識させられるようなリーダー シップを発揮されることを期待する旨述べて会談を

終了した。 グスマン首相との会談 江 田 議 長 よ り 今 回 の 訪 問 で は 国 づ く り が 順 調 に 進 ん で い る 様 子 を 見 る こ と が で き た 、 イ ン フ ラ 整 備 は 重 要 で あ る が 今 後 民 主 国 家 を 担 っ て い く 国 民 を 育 て る 教育も重視すべきである等述べた。 グ スマン首相は、一九九九年の支援国会合以降長き にわたる日本からの援助に感謝する、今回の江田議長 一行の訪問は日本の東ティモールへの信頼を示すも のである、 今後は雇用創出、生活安定等を目指してい きたい等述べた。 その他の要人との会談等 その他の要人との会談においても江田議長一行の 来訪を歓迎する旨、また日本からの援助・支援に感謝 する旨の発言がなされたが、特にグテーレス外務大臣 代行(副首相)及びカレ国連事務総長特別代表からは 年から〇四年まで派遣された自衛隊施設部 00 =隊のインフラ整備分野での貢献について、さらにカレ 特 別 代 表 か ら は 日 本 か ら 派 遣 さ れ た 文 民 警 察 官 の 貢 献についてもそれぞれ謝意が表明された。) タイ王国 (プラソップスック上院議長との会談 プラソッ プスック上院議長より、 江田議長一行の来 訪 を 歓 迎 す る 、 今 回 の 訪 問 に よ り 両 国 関 係 、 特 に 両 議 会 間 の 関 係 が 一 層 緊 密 化 す る こ と を 期 待 す る 旨 の 発 言 が な さ れ た 。 ま た 同 議 長 よ り タ イ 日 友 好 議 員 連 盟 の メンバーが各国友好議連の中で最大であることを含 め両国関係が緊密であることの紹介がなされた。 江田議長は、今回の招待に感謝する、アジアにおい て植民地とならなかった両国がアジアそして世界の 平和と安定のため協力していくべきと考える、両国関 係は二 つの還暦を経て百二十一年目を迎えたところ で あ り 新 た な 一 年 目 と い う 気 持 ち で 一 層 関 係 を 深 め ていきたい等述べた。また江田議長は、タイに進出し ている日本企業が地元の人々の雇用を生み、タイ経済 貢献しておりタイの人々もそのように受け止めて おられることをうれしく思う旨、さらに両国は今後二 国間のみならず多国間でも協力を深めていきたい旨 発言した。 チャイ下院議長との会談 江田議長より、 タイ挙げての歓迎に感謝する、 人同士、理解を深め交流を進めていきたいと述べると ともに、地球温暖化・食糧問題等の問題についても言 及した。 チ ャイ議長は、江田議長一行の来訪を歓迎する 旨述 とともに、 タイはすべての分野で日本より多大の

支 援 を 受 け て お り 日 本 か ら の 投 資 も 多 い 、 タ イ 下 院 議 長 と し て 日 本 の 政 府 が タ イ を 支 援 す る 政 策 を と っ て

きていることに感謝したい旨の発言があった。

ャイ副首相との会談 ソムチ ヤイ 副首相は、現在サマック首相が外国出張 あ IJ 相 より自分に代わって江田議長一行をお 迎えす る う命を受けた旨説明す るとともに、今回の 来訪がタ 1 日関係の更なる増進に寄与することを期 待 し て い る 、 一 議 員 と し て も 今 後 双 方 の 立 法 府 同 士 の るこ とは喜ばしい等述べた。 交流が深ま 江 田議長は、 今回上院の招待で訪問したが下院議 もお会いし、 さらにプミポン国王陛下にも 政府要 人に 拝謁す る予定になっ ている、 この訪問が日タイ関係の 層の深化につながるものと確信している等述べる لح とも 今 後 両 国 が 多 国 間 協 力 、 環 境 問 題 、 に 災害援助 々 な 分 野 で の 協 力 等 関 係 を 深 め て い く こ と を 期 待す 旨述べた。 る (≡) 1 ド ン ァ ンサリ 上院議長(副大統領を兼務)との会談

ン ァ サ IJ 議 長 が 、 イ ン ド 上 院 は 参 議 院 と 規 模 も ほ と んど同 じであり議会間交流を一層深めるべきである と述 べたのに対し、江田議長も右発言を歓迎し今後交 アンサリ議長はまた、 流を深め ていきたい旨応じた。 関係はすばらしく良好であり今後ますます 現在両 国 緊密化していくだろうと述べるとともに日本からの Aに感謝している旨述べた。 O D

江田議長は、日本のODAに対する謝意をうれしく思うと述べるとともに我が国ODAで建設されたデリー地下鉄は代表的成功例であると承知している旨発言した。

両議長はその他、それぞれの国内の政治状況、原油価格を含む世界的な物価高騰、地球温暖化、近隣諸国との関係、テロとの闘い、エネルギー問題、科学技術・宇宙開発等幅広い分野について意見交換した。

ン首相との会談

首相は、 イ ンドでは日本と強固で生産的な関係 くことを全政党が支持しており、江田議長の来訪 始め ط す る 両 国 の 要人往来は両国関係強化に向け た機運を一層高める であろう と述べるとと もに、 ンドに対するODAに感謝する、 今後経済連携 からイ 協定締結も含め両国の経済的関係を更に幅広いもの に し て い き た い 、日 本 と 二 国 間 の み な ら ず 国 連 安 保 理 改革など多 国間の枠組みでも協力していきたいと考 ている等発言した。

江田議長は、二〇〇六年にシン首相が訪日した際に行った国会演説を拝聴したことを紹介しつつ今回参議院議長として訪問の機会を得て大変うれしく思う、近年日印関係は政府間関係を中心に進展してきたが、国民同士の交流はまだ進展の余地があり特に議員交流についてはいまだ十分とは言えないので今後より密接な交流を行っていきたい旨述べた。

また、それぞれの国内の政治・経済状況、それぞれ

が属する地域の情勢、地球環境問題等について意見交換を行ったが、江田議長より、両国はアジアの民主主義発展にも協力して取り組めるのではないかと述べたのに対し、シン首相も両国は共通の価値観を有しており協力して民主主義の進展に努めていくべきであると賛同した。

・ 我 が 国 〇 D A 関 連 施 設 の 視 察 等 で の 我 が 国 の 我 が 国 の 我 が 国 の 我 が 国 の 我 が 国 の 我 が 国 の の 我 が 国 の の 我 が 国 の の 段 は る 〇 D A ロ 顧 展 を 神 で 建 設 に か 、 我 が 国 の 円 借 款 で 建 設 に で ず 可 が 国 の で 建 設 に 、 我 が 国 の 円 借 款 で 建 設 に 、 我 が 国 の 円 借 款 で 建 設 に が 可 が 「 回 が 「 可 の の 関 に も 乗 車 し て 視 察 を 行った 贈 り た を 贈 り た を 節 リ し た を 間 り に が 活 用 さ れ て い る 状 況 を 視 察 の の 贈 い に 終 わ り に

最後に、今回訪問した三か国の立法府を始めとする関係機関関係者各位に改めて感謝申し上げるとともに、我が国関係在外公館からの支援に対し心より御礼申し上げる。

(別添)

東ティモール民主共和国国民議会

参議院議長演説文 ンド・ ラサマ・デ ・アラウジョ国民議会議 ェルナ ご列席の皆さん。 議員の皆さん。 長閣下、 まさに万感の思いを込めて、 私は本日、 演説を行わ ていただきます。 独立を果たした東テ ィモール民主 共和国の厳粛なる国民議会において、議員の皆さんと 東ティモール国民の皆さんに、日本国参議院の議長と てお話しするというのは、これまでの皆さんの苦難 の歴史と私との関わりを思い出してみると、 ります。古くからの友人であるラサマ デ・ • アラ ョ議長には、 こ の た び 、 私 た ち 一 行 を 東 テ ィ モ ー ルにお招きいただいた上、この栄誉ある素晴らしい機 会を設けていただき、心からの感謝を申し上げます。 (輿石東、尾辻秀久、白浜一良各議員を紹介) また、本年二月には襲撃事件がありましたが、負傷 されたラモス・ホルタ大統領が快方に向かわれ、 ・グスマン首相が無事であったことに、胸をなで 下ろしています。この事件の解決で、また皆さんの建

国の足取りが、一段と確かなものになると確信してい

ます。 私はこれまで二十年間以上にわたり、一貫して東 ィモールの自決権行使を支援してきました。東ティ モ ー ル へ の 訪 問 も 今 回 で 五 回 目 で あ り 、 特 に 一 九 九 九 年には住民投票の監視団に参加し、 \equiv 一年には憲 法制定議会選挙の監視団として、この地にまいりま 若い母親が正装し て子どもを抱きかかえ その際、 ながら投票していたのを目の当たりにし、大きな感銘 を受けたことを思い出します。 その母親は、 東ティ ールの新しい出発をわが子自身の記憶にもしっか りと刻みつけておきたいとの一心で、 早朝から徒歩で 子 ども連れでいくつも山を越えて投票所まで来たの す。私はこれを聞いて、 東ティモールの国民の皆さ んがいよいよ自決権を行使す る時が来たのだと実感 ると ともに、 この皆さんの現実の体験があれば、必 建国は成功すると確信し、これからも、この新しい 萌芽を支援していこ うとの意を強くしたものです 日本においても私は、一九八六年の国連での意見陳 衆参両院の超党派議員による 述に続いて 東テ モ - ル 問 題 を 考 え る 議 員 懇 談 会 」 を 設 立 し 、 その事務 長を、 そして後に 「 東 テ ィ モ ー ル 議 員 連 盟 」 に改組 て会長を務め、 東ティモールの民族自決の完全実現 しい民主主義国家建設の支援に向けて、議員間で と新 の 問 題 意 識 の 共 有 と 日 本 政 府 や 国 際 社 会 へ の 働 き か けに努めてまいりました。訪日された東ティモールの さんの日本国内での集会行脚のお手伝いをしたり、 ポルトガルでの「東ティモール国際議員団 (Parliamentarians for East Timor)」結成に参加 したり、 訪日される要人にお会いすることも数知れず、 東ティモールの問題は、私の議員活動のかなりの部分 において、 長く主要な位置を占め続けたのです。 いうわけで私は、 議長就任後最初の外国訪問に、 ールを選びました。 1 Ŧ うした私の活動の原点のひとつになったある人 とを、 ぜひ紹介させて下さい。 貴島正道さんとい 残念ながらこの春、九十歳で他界されました。 次世界大戦中に日本軍は、宗主国のポルトガルが中 であったのに、 その植民地であったこの地を占領 立 国 しました。 貴島さんは、そのときの兵隊の一人で、 つぶさに見て心を痛めていたので す。 地 の状況を どこでも悲惨ですが、 この地においても、 は や子どもたちに耐え難い痛苦と屈辱を与えました。 改めて心からのお詫びを申し上げます。貴島さ んは帰国後、政党活動に携わり、特に一九七四年のポ トガル政変以来続いた皆さんの困難な民族自決の ル 歩みを 一貫して支援してきました。私も必ず一度、 てでも貴島さんをこの地にお連れしたかった つ のですが、叶わぬこととなりました。しかし、日本の ような過去を背負った国にとって、同じアジアの仲間

の建国を支援することは、日本が国際社会の中で崇高 な役割を果たしていくために、欠かすことの出来ない 責務だと確信しています。 して私は、 二年にはついに、 独立式典に 十 一 世 紀 最 初 の 独 立 国 の 誕 生 に 立 ち 会 う に 至 り ま した。東ティモールの記念すべき歴史を刻んだ時間を 有したこの時の感激は、今も強く心に残って い ま 同時に、 式典参加の各国首脳とともに喜びの言葉を交 その後イラク戦争の中でバグダッドで任務中に 横死したセルジオ ヴィェラ • デ メロ国連事務 特 別 代 表 の 晴 れ や か な 顔 が 、 今 も ま ぶ た に 浮 か び ま す しかし一方で、東ティモール 国民の皆さんは現在も 大変な苦難の中にあります。建国の作業はどこ でも大変な苦労を伴うものですが、 独立ま での過 状況を考えると、 まず国民の中にある様々な亀裂 しなければなりません。 皆さんの受容真実和解委員 会 の 作 業 は 、 国 際 社 会 で も 高 く 評 価 さ れ て い ま す 同 時に、独立が一般国民の毎日の生活にとって良かった 受 け 止 め ら れ る た め に は 、 政 情 の 安 定 や 経 済 活 動 の 向上が不可欠です。現状の改善は、もはや一刻の猶予 も許されないと思います。皆さんの絶え間ないご努力 し、心から敬意を表します。そうした中にあって、 モールの国づくりの基礎となる国民議会の役 東テ 1 割 はき わめて重要だと確信しています。国民議会にお る活発な議論は、東ティモールの平和と安定を目指 け 国民の皆さんの利益に直結するものであり、高 く評 価 し て い ま す 。 ラ サ マ・デ・ア ラ ウ ジョ 議 長 を は じ め 、 国民議会の議員の皆さんの一層のご活躍を期待せず にはいられません。 れまで日本は、 自衛隊や警察要員の派遣、 を通じて、東ティモールにおける平和の定着と 力な くりを支援してきました。 今後とも、 国際社会を 東ティモールの平和と安定のために、 主導し て、 最大 限の支援を行ってまいりたいと考えています。そして、 それを円滑に進めるためには、両国の政府同士の交流 ろんのこと、議会同士、議員同士の緊密な交流 はもち の促進が不可欠です では、 議会開設から百二十年近くが、 日本 今の憲法 が 衆 参 両 院 を 設 置 し て か ら も 、六 十 年 以 上 が 経 過 し ま した。 昨年の参議院議員選挙の結果、 衆参両院の与野 の構成に変化が生じ、 日本の議会政治は大きな転換 えているところではありますが、 その積み重ね を迎 た 歴 史 の 長 さ ゆ え 、 海 上 を 直 進 し て き た 巨 艦 が す を切れないように、方向転換に手間取っ ている面 定できません。それでも長い私たちの議会政治の経 験や知恵が、皆さんのお役に立つこともあると思いま 発足間もない東テ ィモール国民議会は、 方、 き活気とある種の熱気を帯びていると思います。そう した生成期の議会である東ティモール国民議会から、

い わ ば 成 熟 期 に あ る 日 本 の 国 会 が 学 ぶ べ き こ と も あ るのではないかと考えています 幸いなことに、 今 般 、 ラサマ ・デ・アラウジョ議長 アティブにより、東ティモール国民議会に日 のイニシ 本の議会との交流を進める議員連盟が発足したと 伺っています。ラサマ・デ・アラウジョ議長とともに、 その発足に貢献したアトゥル・ カレ東ティモール担当 国連事務総長特別代表に深く謝意を表します。 今回のわれわれの東ティモール訪問を契機に、 今 後 両者の議員連盟間の交流はもとより、広く議員間の交 流 を 通 じ た 協 力 支 援 が ー 層 幅 広 い も の と な り 、 こ れ が 両国の友好関係の促進に、ひいては東ティモールの安 定と繁栄に寄与することを、心より期待しています。 デ・アラウジョ議長をはじめ、 ラサ マ 国民議会議 その一歩として、ぜひとも近い将来 員の皆さんには、 に日本にお越しいただき、参議院を訪問されますよう、 公式に招請申し上げます。 結びに皆さんが、 美しい地球の中でもとりわけ美し い自然を誇るこの地域に、自由と民主主義の質の高さ を 誇 る 東 テ ィ モ ー ル 民 主 共 和 国 を 立 派 に 作 り 上 げ ら そして国民の皆さんが平和で心豊かな生活 れるよう、 を 享 受 さ れ る よ う お 祈 り し て 、 こ の 厳 粛 な る 東 ティ モール国民議会における私の演説を終わります。 ご清聴ありがとうございました。